

## 第1学年 道徳学習指導案

### 1 主題名 支えられている自分【内容項目2－(6)感謝の心】

資料名 『ピースサイン』（出典：彩の国の道徳（中学校）『自分を見つめて』P31～32）

### 2 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

学習指導要領2－(6)の内容は「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる」ことをねらいとしている。人間は、互いに助け合い、協力しあって生きている。この助け合いや協力の根底にあるのが、互いに感謝する心である。人間関係を築いていく上で、最も大切なものであるといえる。入学式から3ヶ月、中学校生活にも慣れ、新しい人間関係もできてきた。自立心が強まり、所属する団体が増え、多くの人間と関わる毎日を過ごしている。その毎日の中で、自分を支えてくれる存在に気づける生徒も増えている。ただ、低学年を世話する立場の「小学6年生」から「中学1年生」という立場になり、教師や上級生に世話を焼いてもらう生活が続いていた。知らず知らずのうちに甘え、だれかにやってもらうことが当たり前になっている様子も見受けられる。部活動では3年生が引退したところも多く、夏季休業が明ければ生徒会役員選挙も控えている。中学1年生も、学校の要として力を発揮する準備をしなければならない時期に来ている。

そこで、中学1年生のこの時期に自分が多くの人に支えられていることに気づかせ、感謝の心を持つことでより良い人間関係を築いてほしいという思いから、この主題を設定した。

#### (2) 生徒の実態

4月に「道徳オリエンテーション」を行い、「道徳は、自分の考えを持つ時間、他の人の考えを知る時間」ということを確認した。小学校と比べると考える内容が難しいらしく、初めは道徳が終わると「考えすぎて疲れた」という感想が返ってきた。このことからわかるように、資料に向き合い、真剣に考えようとする生徒は比較的多い。ただし、思いや考えを表現することについては苦手意識を持っている生徒も少なくない。先日、生徒たちが慕っていた教育実習生から送られてきた手紙をもとに道徳の授業を行い、「思いを伝えることの大切さ」について考えを深めた。また、「心のノート」の中で見つけた、お気に入りの言葉を発表し合うことで「自分の考えを伝える大切さ」も実感した。思いや考えを表現することについては、引き続き支援していこうと考えている。

生徒たちは、自分の生活が多くの支えによって成り立っていることを理解はしているものの、やってもらうことが当たり前になってしまい、感謝の心を持って受け止めることができていない。授業になれば、係が呼びに行かなくても先生は来る。適当なあいさつや態度でも、授業は始まり、やがて終わる。清掃や給食も、生徒が動かなければ先生も動いてくれる。部活動では、これらの「先生」が「先輩」に変わる。先生や先輩からの注意や叱責に、無関心あるいは不満の声を上げる生徒もいるところを見ると、「支えられている」と感じていないことがわかる。より身近な保護者に対する態度は、さらに甘えが強いことが予想される。しかし、周囲の人の支えがあるからこそ「今」があり「これから」につながる。3年生が高校受験の準備段階に入り、1年生が2年生を支えて学校の要となりつつある今、自分を支えてくれている人に感謝の心を持ち、これからの活動に取り組ませたい。

### (3) 資料の活用について

「彩の国の道徳」は、埼玉県が独自に作成した道徳教材である。埼玉県の子どもたちの専用道徳教材とも言える。本資料は、「彩の国の道徳」の中にある、「その他の重要な課題に対応する教材」にあたる。

本資料は、埼玉県久喜市の中学校に通う中学2年生のテニス部員「慎祐」が、3年生引退後、1年生とペアを組むことになるところから始まる。慎祐は1年生の誠也を支えようと奮戦する。しかし、2年生の慎祐から見ると1年生の誠也の成長は遅く、苛立ちは募るばかり。夏の祭りに同級生と出かけ、慎祐は誠也についての愚痴をこぼすが、同級生からは誠也のがんばりを認める発言を聞かされる。戸惑いながらも大会の日を迎えた慎祐は、対戦相手に狙われる誠也を守ろうとする焦りからミスが続き、第1ゲームを落としてしまう。第2ゲームの直前、誠也が慎祐に声をかけた。「僕を信じて下さい」「先輩一人でがんばらないで下さい」という誠也の言葉で、慎祐は自分も誠也に支えられていると実感する。大会の翌日、慎祐は改めて誠也に感謝の心を伝えようとしたが、誠也は転校してしまっていた。

生徒たちには、慎祐が誠也と関わっていく中で感謝の心が育っていったことに気づかせたい。また、『転校していった誠也からの手紙』からは、感謝の心が相手にとって『心の贈り物』になることに気づかせ、次の「自分を支えてくれている人への手紙」を書く意欲へとつなげたい。

### 3 研修テーマとの関わり

本校の研修テーマは「確かな学力を育成する授業づくり～学力向上の基盤としての道徳実践力の育成～」である。「確かな学力を育成する授業づくり」とは、「基礎的・基本的な知識や思考力、技能を習得することができる授業作り」とであると捉えて進められている。何かを「習得することができる授業」には、生徒と教師、生徒同士のより良い人間関係が必要である。そして、「学力向上の基盤としての道徳実践力の育成」とは、授業の室や家庭学習の質を向上させるため、生徒と教師、生徒同士、さらに生徒と保護者の人間関係を良好にすることである。そのために、感謝の心を持って人に接することのできる生徒を育成する。そうすることにより、より良い人間関係の構築、授業に対する意欲の高まりや家庭学習の定着、ひいては「確かな学力を育成する授業作り」につながると考える。

### 4 指導計画

月	内容
4月	道徳オリエンテーション ・道徳の時間とは（自分の考えを持つ、他の人の考えを聞く） ・道徳の時間の約束（他の人の考えや思いを否定しない）
5月	道徳の実践② ・ワークシートの基本的な使い方（自分の考え・思い→黒／他の人の考え・思い→赤）
6月	心のノート開き ・心のノートで「お気に入りの言葉」を探し、ノートを好きになる。
7月	道徳の実践② ・自分を支えてくれている人に気づき、感謝の心を伝える（本時） ・夏休み前に、4月から7月を振り返り、学級の仲間のがんばりに気づき、感謝の心を伝える。
8月	登校日の学活 ・夏休み中の自分の行動を振り返り、保護者やその他の「支えてくれている人」への感謝を忘れていないか確認する。 夏休み終了直後の学活「夏休み明けの抱負」 ・感謝の気持ちを持って授業や諸活動に参加できるよう、「感謝の心」について思い出させてから「夏休み明けの抱負」を発表させる。

## 5 本時の学習

### (1) 本時のねらい

自分を支えてくれている身近な人の存在に気づき、感謝すると共に、より良い人間関係を築こうとする意欲を高める。

### (2) 展開

過程	学習活動と主な発問	期待される生徒の反応	指導上の留意点	資料	時間
導入	<p>●「支えられている」ことの確認</p> <p>◇あなたを「支えてくれる人」はいますか？</p> <p>◇それはだれですか？</p>	<p>いる／いない</p> <p>・友達 ・親</p> <p>・先輩 ・先生</p>	<p>・「支えてくれる人」をワークシートに書かせる。</p>	<p>ワークシート</p>	10
展開	<p>・『ピースサイン』を範読し、慎祐の気持ちの変化について話し合う。</p> <p><b>気持ちの変化</b></p> <p>①思わず怒鳴ってしまった</p> <p>②航平の話聞いて戸惑う</p> <p>③「誠也、ごめんな」</p> <p>④誠也の転校を知る</p> <p>◇慎祐が「誠也に支えられている」と感じたのはいつだろう？</p> <p>・『転校した誠也からの手紙』を読む。</p> <p>・「自分を支えてくれる人」へ手紙を書く。</p> <p>◇どんな気持ちを伝えたか？</p>	<p>①自分だけが苦労している。</p> <p>○何で上達しないんだ。</p> <p>○航平と組んでいれば。</p> <p>②誠也もがんばっているんだ。</p> <p>○オレは何も知らなかった。</p> <p>③オレばかりが支えている気になっていた。</p> <p>○誠也は大事なパートナーだ。</p> <p>○自分が情けない。</p> <p>④何で黙っていたんだ。</p> <p>○ありがとうを言いたかったのに。</p> <p>○大会中、つらかっただろうな。</p> <p>◇②で誠也の気持ちに気づいた？</p> <p>◇③で完全に気づいた。</p> <p>・ありがとう</p> <p>・感謝してます</p> <p>・これからもよろしく</p>	<p>・気になった所に線を引かせる。そうすることで作品に集中できるようにする。</p> <p>・「気持ちの変化」のワークシートに矢印を記入する。</p> <p>・手紙は、実際に相手に渡すつもりで書く。この手紙は実際に相手に渡すこと、手渡しでも、郵送でも良いことを伝える。</p>	<p>プリント①</p> <p>『ピースサイン』のコピー</p> <p>ワークシート</p> <p>プリント②</p> <p>『転校した誠也からの手紙』</p> <p>・便箋</p>	30
終末	<p>●自分との対話</p> <p>・この時間を通して思ったこと、感じたこと、気づいたことを書く。</p>		<p>・時間をかけ、考えさせる。</p> <p>なかなか書き出せない生徒にも安易に声をかけずじっくり待ちたい。机間指導で書いているものを読むときにもできる限り邪魔にならないようにし、じっくりと自分と対話させる。</p>	<p>ワークシート</p>	10

### (3) 評価の観点

自分を支えてくれている身近な人の存在に気づき、素直に感謝の気持ちを持つことができたか。

### (4) 事後指導

- ・本時で書いた手紙の誤字脱字をチェックし、コピーを取ったあと本人に返す。相手に失礼な表現が特に無ければ添削は行わない。各自に封筒を渡し、宛名（郵送の場合は住所）、自分の名前を書く。
- ・ワークシートの感想をまとめ、プリントにして配る。

## 6 資料分析

資料名 「ピースサイン」

### 【スタートの状況】

〈登場人物〉主人公「慎祐」中学2年生、テニス部

〈状況〉

- ・夏休み前、次の大会に向けて新しいペアが発表される。
- ・同学年の航平と組みたい（そうすれば優勝も夢じゃない）
- ・実際のペアは1年生の誠也
- ・「なぜ、オレの相手は航平じゃないんだ・・・」

### 【話題につなげたい場面】

慎祐は「誠也のため」と思い、一生懸命に指導を続けるが、誠也はなかなか上達しない。いらだちを感じていた慎祐は、思わず大声で誠也を怒鳴ってしまう。

### 【キーワード】

- ・先輩として、オレが誠也を支えていなくては…。
- ・オレの気持ちもわかってくれ。

### 【考えさせたい心の内】

「誠也のため」と思いながらも、同級生の上達を見て焦り、苛立つ慎祐の心の内。

祭りの日、同級生の航平に誠也のことを愚痴る慎祐。しかし、航平から「誠也は上手になった」「誠也は『慎祐先輩のおかげだ』と言っていた」と伝えられる。

- ・誠也はオレに対して、感謝の「か」の字もない。
- ・「慎祐先輩のおかげです！」って、ニコニコしながら言ってたぞ。
- ・誠也が慎祐へのお礼の気持ちを込めて、毎日練習後に（ボールを）磨いている。

誠也のがんばりを同級の友達から聞き、誠也に対して苛立っていた自分に戸惑う慎祐の心の内。

大会当日、第1試合で誠也を守ろうとするあまりミスが続き第1ゲームを落としてしまう。慎祐に誠也が駆け寄り、話しかける。

- ・先輩一人で頑張らないでください。
- ・オレばかりが誠也を支えていると思っていた。

自分が支えていると思っていた誠也に励まされ、はっとした慎祐の心の内。

大会の翌日、改めて誠也に感謝の気持ちを伝えようとした慎祐だが、誠也はすでに転校してしまっていた。

- ・なぜ、黙っていたんだ
- ・胸が熱くなった。

誠也に自分の気持ちを伝えられなかった慎祐の心の内。

## 7 板書計画

道徳の約束：人の考えを否定しない

資料「ピースサイン」  
 〇慎祐の気持ちの変化  
 ①思わず怒鳴ってしまった  
 ②航平の話  
 ③「誠也、ごめんな」  
 ④誠也の転校

支えられている自分  
 1. あなたを支えてくれる人はいますか？  
 はい  
 いいえ  
 ○それは誰ですか？  
 ・友達 ・親  
 ・先輩 ・先生

2. 慎祐が「誠也に支えられている」と思ったのは？

3. 自分を支えてくれている人に、手紙を書こう  
 ○どんな気持ちを伝えたい？  
 ・ありがとう ・感謝します  
 ・これからもよろしく

4. 感想

## 8 ワークシート (案)

道徳ワークシート
平成24年7月13日 (金)

(今日のテーマ)

1. (第1発問)  
 はい・いいえ

「はい」の人へ・・・ちなみに誰ですか？

2. (第2発問)

④
③
②
①

4. 今日の授業の感想

1年2組 ( ) 番 氏名